

# 北海道

Hokkaido Tourism Organization

## 観光レポート

2022年  
令和4年12月20日発行

冬号



来道者数は7月以降4か月連続で100万人を超えており  
順調に推移している

**トピックス** アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)2023の開催に向け進む準備

**編集コラム** 地域公共交通における観光需要の取り込みの可能性について

# 北海道の延べ宿泊者数実績

2022年9月

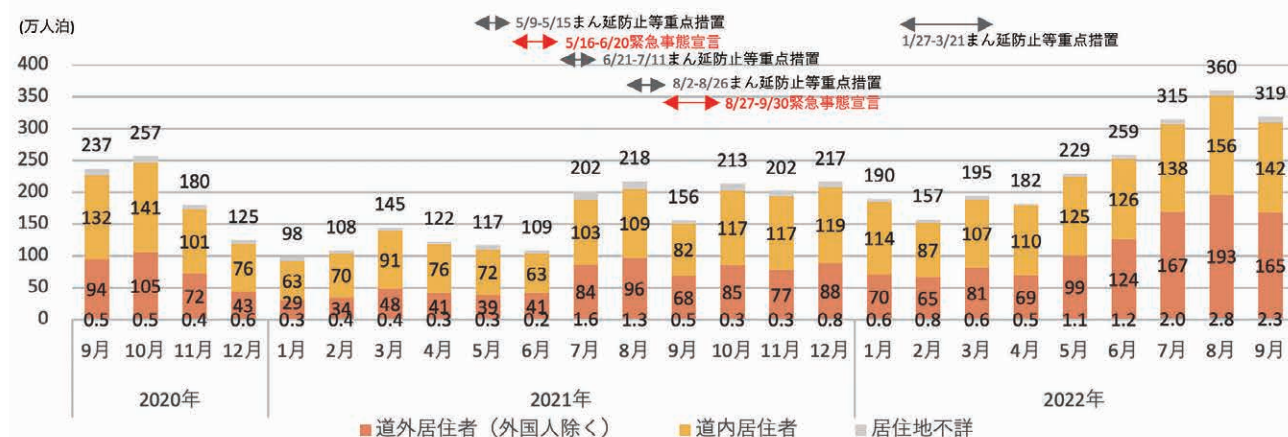
- 北海道の延べ宿泊者数(全体)は、9月は319万人泊(前年同月比+104.3%、2019年同月比-1.8%)であった。新型コロナウイルス感染拡大前の2020年1月(338万人泊)以来、2年6か月振りに300万人泊を超えた7月以降、3か月連続で300万人泊を上回った。
- 北海道の日本人延べ宿泊者数は、9月は317万人泊(前年同月比+103.4%、2019年同月比+12.2%)であった。2019年同月比からプラスとなったのは6月以降、4か月連続となり、感染拡大前の水準まで回復している。
- 北海道の外国人延べ宿泊者数は、9月は2万3千人泊(前年同月比+401.5%、2019年同月比-94.6%)となり、2ヶ月連続で2万人泊を超え、徐々にではあるが、増加傾向にある。
- 居住地別・月別の推移は、道外居住者(外国人を除く)は9月165万人泊(前年同月比+142.5%、2019年同月比+15.5%)、道内居住者は9月142万人泊(前年同月比+73.1%、2019年同月比+17.1%)となった。2019年度同月比を比較すると、道外居住者においては7月以降3か月連続で、道内居住者においても4月以降6か月連続で+10%以上の増加となっている。

## 延べ宿泊者数データ(2022年9月第2次速報)

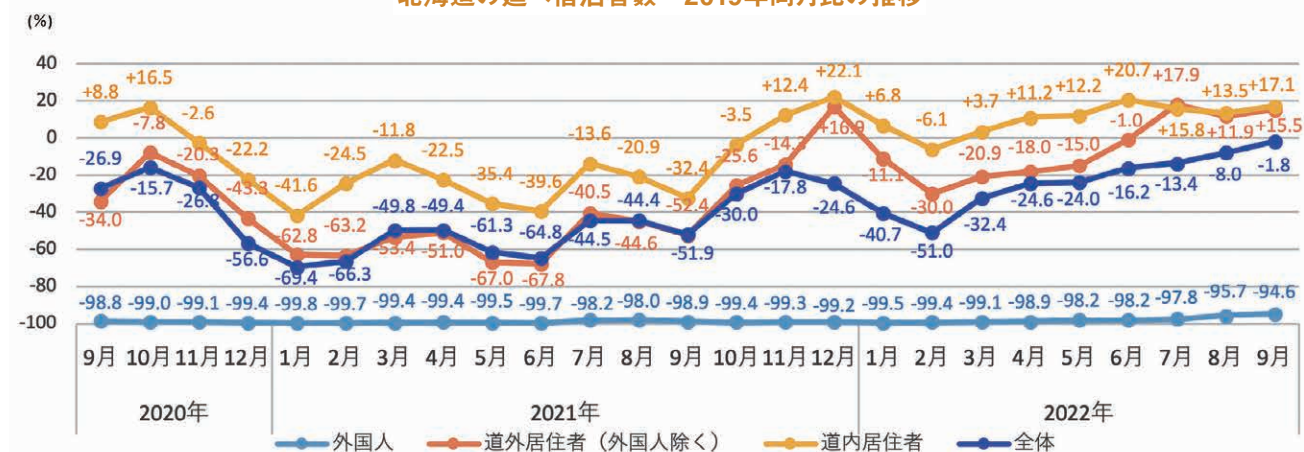
(単位:人泊)

	北海道			全国		
	全体	日本人	外国人	全体	日本人	外国人
2022.9	3,188,360	3,165,390	22,970	39,415,840	38,600,090	815,750
2019同月比	-1.8%	+12.2%	-94.6%	-19.2%	-4.7%	-90.1%
前年同月比	+104.3%	+103.4%	+401.5%	+73.1%	+71.8%	+179.0%

### 北海道の延べ宿泊者数 月別の推移



### 北海道の延べ宿泊者数 2019年同月比の推移



出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成  
注1:2022年1月~2022年9月は速報値。

# 来道者輸送実績

2022年10月

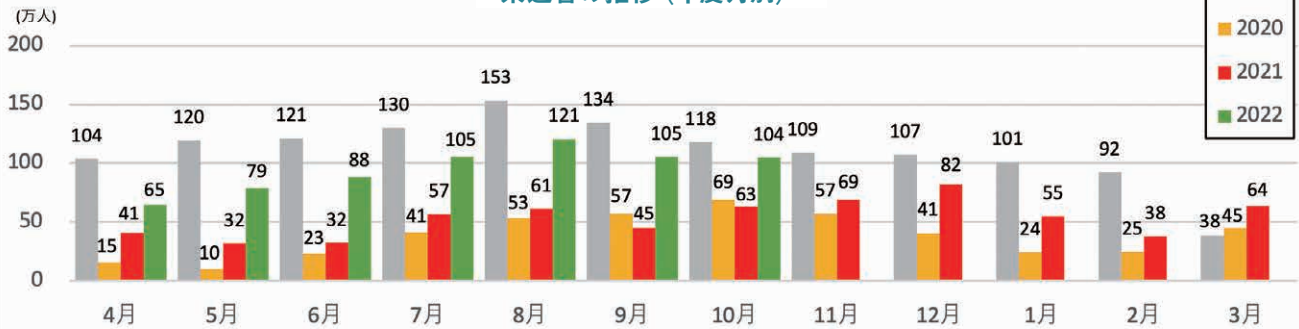
- 2022年10月の来道者数は104万4千人となり、前年同月比+64.7%であった。新型コロナウイルス感染拡大前の2020年1月(100万8千人)以来、2年6か月振りに100万人を超えた7月以降、4か月連続で100万人を上回った。
- 感染拡大前の2019年10月と比較すると-11.3%となり、7月以降-20%前後で推移していたが、「全国旅行支援」が10月11日から開始したことにより、-10%近くまで回復してきている。
- 輸送機関別の来道者数は、航空機が92万7千人で前年同月比+70.4%、JRが5万4千人で前年同月比+50.7%、フェリーが6万4千人で前年同月比+16.6%となり、特に航空機の輸送が前年同月を大きく上回った。
- 発地空港別の来道者数は、関東が58万6千人と全体の63%を占め、次いで関西14万6千人(16%)、名古屋7万2千人(8%)、東北5万6千人(6%)となった。
- 着地空港別の来道者数は、新千歳・丘珠が75万3千人と全体の81%を占め、次いで函館6万2千人(7%)、旭川3万9千人(4%)、帯広2万6千人(3%)、釧路2万1千人(2%)、女満別1万7千人(2%)となった。

## 来道者輸送実績(輸送機関別)

(単位:人)

	総数	航空機	JR	フェリー
2022.10	1,044,225	926,834	53,800	63,591
2019同月比	-11.3%	-10.6%	-24.2%	-7.9%
前年同月比	+64.7%	+70.4%	+50.7%	+16.6%

## 来道者の推移(年度月別)



## 来道者輸送実績(発地空港別)

(単位:人)

	東北	関東	北陸・信越・東海	名古屋	関西	中国・四国	九州・沖縄
2022.10	55,880	586,101	21,535	72,372	145,584	10,470	34,892
2019同月比	-16.6%	-13.7%	-2.0%	-8.8%	+2.6%	-23.5%	+3.2%
前年同月比	+64.9%	+65.7%	+175.4%	+61.4%	+76.0%	+782.8%	+78.2%

## 来道者輸送実績(着地空港別)

(単位:人)

	新千歳・丘珠	函館	旭川	帯広	釧路	女満別	稚内	紋別	中標津
2022.10	752,717	61,929	39,238	25,879	21,038	16,912	4,300	2,187	2,634
2019同月比	-9.0%	-8.6%	-16.8%	-13.5%	-17.9%	-32.7%	-20.2%	-46.4%	-39.1%
前年同月比	+72.5%	+59.3%	+84.8%	+85.0%	+56.1%	+26.8%	+62.9%	-5.8%	+57.5%

出典:「北海道観光振興機構来道者輸送実績調査」をもとに作成

### 今号の注目!

## 海外からの誘客に向けた市場分析レポート(ターゲットの分析・打ち手の検討)

当機構では、インバウンド誘客に向けた戦略を定め、打ち手(施策)を検討し、実施する上で、道内自治体・DMO・観光関係事業者の一助となることを目的に、各市場毎にターゲットを分析した「訪日外国人来道者の増加に向けた市場分析レポート」を作成しております。

詳細は北海道の観光統計データサイトにてご確認ください。

PC版はこちら ⇒ <https://statistics.visit-hokkaido.jp/>

## 台湾市場におけるメインターゲット例(友人・知人との女子旅行)

1. 基本情報	2. 観光の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 性年代: 20歳代、女性</li> <li>■ 同行者: 友人・知人</li> <li>■ 所得水準: 500万円未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光の主な目的: 都市部回遊・祭(イベント)参加</li> <li>■ 目的地: 札幌近郊</li> <li>■ 来道時期: 1月・2月(春節休暇)</li> <li>■ 滞在日数: 4日~6日</li> </ul>
3. 観光の段階ごとの情報	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 旅前                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 情報収集手段: 個人ブログ中心</li> <li>▶ 手配の形態: 個人手配</li> </ul> </li> <li>■ 旅中                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 体験意向: ショッピング(化粧品・香水等)、お祭り(イベント)参加</li> <li>▶ 宿泊地、道央圏</li> <li>▶ 宿泊地の手配: 旅行予約サイト</li> <li>▶ 移動の手配(道内): 事前手配せず公共交通機関等を利用</li> </ul> </li> </ul>	

出典:「訪日外国人来道者の増加に向けた市場運席レポート」より一部抜粋



# アドベンチャートラベル・ワールドサミット (ATWS) スイス大会に参加 北海道開催に向けて進む準備



ATWSの北海道開催まで1年弱となった今年10月、スイス南部のティチーノ州ルガーノで開催されたATWS 2022に当機構も参加しました。日本からはアドベンチャートラベルの旅行商品を造成する全国のツアーオペレーターのほか、北海道運輸局、北海道、札幌市、釧路市、道外地域関係者、JNTOなど約70名が参加、次期開催国・日本を参加者に印象付けました。

ATWSはAdventure Travel Trade Association (ATTA、本部は米国)の会員が年に一度集まる世界大会で、欧米の旅行事業者やメディアを中心に約800名が参加。一般的な展示・商談会とは異なり、参加者同士のネットワークの場としてコミュニケーションが重視されます。挨拶をしてしばらく立ち話の後、次の人との会話に移る姿が会場内外で見られました。

## Pre-Summit Adventure (PSA)

大会前に実施される4泊程度のエクスカージョンで、招待メディアやツアーオペレーターが対象。楽しみにしているATTA会員が多く、大会のホスト国にとっても自国のアドベンチャートラベルをPRする絶好の機会です。

機構職員が参加したのはマッターホルンで知られるヴァレー州のツアー。冬はスキーリゾートとして賑わう地域ですが、今回はハイキング、Eバイク、ジップラインなど夏のコンテンツを体験しました。スケジュールや食事など参加者の要望に応じた柔軟な対応や、訪れるべき理由(=ストーリー)を説明ではなく行程を通して自然と感じられる点などは良い学びに、逆にスルーガイドの不在による不足要素などは、今後の北海道の商品造成に役立てることができそうです。



## Day of Adventure (DOA)

大会参加者全員を対象とした日帰りエクスカージョンで、43コースが提供されました。マウンテンバイク、バンジージャンプなどの難易度の高いコースから、ウォーキング、ヨガ、料理などソフト・アクティビティと呼ばれるものまで内容はさまざま。一日の体験は2種類ほどで、昼食も2時間とゆったりとした日程でした。アクティビティを通じてホスト国の土地や文化を体感するとともに、大会初日に参加者同士が知り合うことに主眼が置かれ、そのための余裕ある時間設定なのだと気づかされました。



## レセプション



開会・閉会のレセプションはスイス政府観光局の主催。オープニング・レセプションでは、アートホールにて弦楽四重奏やドラム演奏等のステージで場を盛り上げ、関係機関の代表者出演によるユーモアあふれる動画に続き、屋外のビュッフェ料理でスイスやティチーノ州をアピールしました。最終日のクロージング・レセプションは、大会のメイン会場でビュッフェ料理を食べながら歓談、その後は近隣のクラブ会場を移し、参加者は共に過ごす最後の夜を楽しみました。

## ATWS 2022 ルガーノ大会プログラム概要

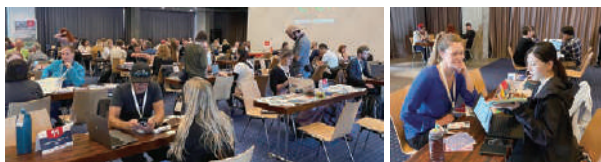
		AM	PM	夕刻～夜	
大会前	9月28日(水)～ 10月2日(日)	PSA(Pre-Summit Adventure) 全13コース			
1日目	10月3日(月)	DOA(Day of Adventure) 全43コース		オープニング・ レセプション	
2日目	10月4日(火)	オープニング、基調講演、分科会、ラウンドテーブル・ディスカッション			—
3日目	10月5日(水)	Marketplace(商談会)		—	
		基調講演、ラウンドテーブル・ディスカッション			
4日目	10月6日(木)	メディアコネクト	クロージング セッション	クロージング・ レセプション	
		基調講演、分科会、ラウンドテーブル・ディスカッション			

ATWS 2023  
公式サイト



<https://events.adventuretravel.biz/summit/hokkaido-2023>

### Marketplace



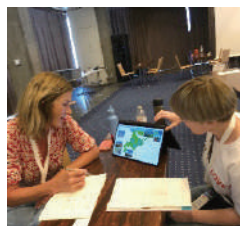
事前マッチングによるツアーオペレーターとの商談会。3時間の間に12分間の商談を最大12セッション行ないますが、参加者は大会期間を通してスマホアプリで繋がることができるため、商談時間外の接触・交流もさかんに行われるのが特徴です。

### ラウンジ出展



Japan Lounge内に北海道のコーナーを設け、日本酒の試飲をフックに会話に繋げて北海道をPR。立ち話が多いATWSでは参加者の多くが80cm四方のカクテルテーブルの枠を購入し、ラウンジは会場内に3か所のみ。ホスト国のスイスは入口前にブースを4か所設営しました。

### MediaConnect



メディアとのフリー商談会。1社6分間の制限があるため、事前に相手の仕事内容や実績を調べておくことと、相手に取材してもらいたい内容を整理しておくことが重要です。

### 日本・北海道のプレゼンテーション



クロージング・セッションでJNTOと北海道がPRステージを実施。知事のビデオメッセージ、会場を沸かせた軽妙なトーク、イメージ動画上映に続いて北海道の代表者が登壇、小金澤会長の発声のもと” See you in Hokkaido, Japan!!”と会場で合唱しました。また、次期開催国への引継ぎとして、スイスから巨大なカウベルが贈られました。

## 北海道内初のwebサイトのデータ連携について



きた・北海道DMOサイト



HOKKAIDO LOVE!サイト



機構他事業のサイト

- ▶ 観光アプリ(現在作成中)
- ▶ チャットボット

当機構では「きた・北海道DMOサイト」で保有している「観光スポット」「イベント」データを、北海道公式観光サイトの「HOKKAIDO LOVE!」側で受ける仕組みを構築することで、データ連携による観光DXを推進しています。地域の観光団体は、集客力のある北海道観光の公式サイトで自分達の情報が表示されることに大きなメリットがあり、広域連携DMO(観光機構)は、地域独自でメンテナンスした情報を自動収集し、タイムリーに更新できることで常に新鮮さを保つことができる、お互いにメリットのある仕組みです。収集したデータはサイトのみならず、現在作成中の観光アプリや12月より稼働したAIチャットボットとも連携し表示することが可能となっています。今後は、このデータ連携の仕組みを道内のDMOや観光団体等に拡大していきたいと考えています。



※各部で展開している事業の一例をご報告いたします。

### 地域観光部

#### 函館大学祭で「ベジスイーツワークショップ」を開催

当機構では、ポストコロナに向けフードダイバーシティ対応として、ベジタリアンやヴィーガンなど、海外から訪れる観光客の多様な食の習慣や生活についての理解促進を図っています。今回、10月16日に函館大学の学生が学園祭イベントとして企画運営する「ベジフェス」とタイアップし、同大学の公開授業として「誰でも簡単に作れる♪ベジスイーツワークショップ」を開催しました。当日は参加者30名が実際に植物性食材だけでオリジナルのパンケーキを作り、理解を深めました。



ベジスイーツワークショップの様子(函館大学)

#### アイヌ文化研修会を座学とフィールドワークを交えて2地区(札幌市、平取町)で開催

当機構では、観光に携わる関係者(通訳案内士、バスガイド、ボランティアガイド等)を対象に、アイヌ文化の正しい知識と理解を深め、観光客に正しく紹介できるよう研修会を毎年開催しています。今年度は座学に加え、新たに札幌市ではコタンがあった北海道大学周辺、平取町では二風谷地区の博物館や資料館で学芸員等による説明を受けるスタイルを取り入れるなど改善を図り、参加者からはより深く学ぶことが出来たと好評を得ました。(10月25日札幌、26日平取)



アイヌ文化研修会の様子(平取町)

### 国内誘客部

#### 世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2022」に出展!

約4年ぶりに東京での開催となった「ツーリズムEXPOジャパン2022」は、9月22日から4日間開催され、会場の東京ビッグサイトに約12.4万人が訪れるなど盛況なイベントとなりました。北海道からは14の振興局管内から27の市町村、観光協会等が北海道ブースに集まり、BtoB向けの商談会、BtoC向けの観光PRをそれぞれ実施しました。「ウポポイ」や「世界遺産の縄文遺跡群」、2023年3月オープン予定の「北海道ボールパークFビレッジ」等の問い合わせが多く、コロナ禍でも北海道への関心の高さが感じられました。



TEJ2022の北海道ブース

### トピックス

祝～旅のプロが選ぶブースグランプリ～で、  
一般社団法人登別国際観光コンベンション協会  
(会長 唐神 昌子氏)が「グランプリ」を受賞!

「ツーリズム EXPO ジャパン」では、毎年、各出展ブースの中から業界関係者の投票で、展示会を盛り上げたブースを選出し表彰しています。今年度は、登別に伝わる伝説「鬼」をモチーフにゲーム感覚で来場者に同地域の魅力を伝えたとして、(一社)登別国際観光コンベンション協会が栄えある「グランプリ」を獲得しました。



TEJ2022(登別ブースグランプリ)

## AT推進部

### 来年開催のATWS2023北海道大会に向け、5つのサイクルルートを検証

9月11日より、来年9月に開催されるATWS2023北海道大会を見据え、サイクリングに精通した専門家を招へい、実際のモデルコースを試走しました。ATWS北海道の公式コースをたどりながら、走行距離やルート、休憩箇所等が適切かどうかなど参加者と意見交換をしながら、全5コースを検証しました。



ATサイクル試走の様子

## 海外誘客部

### 約3年ぶりに、台湾でプロモーション活動を実施！

10月21日より3日間、台北市内で開催されたイベント「Touch The Japan」に出展しました。台湾では隔離措置等の影響もあり、出展者数も少なくコロナ前のような賑わいはありませんでしたが、ブース内の北海道観光PRキャラクター「キュンちゃん」を施したバックパネルが人目を惹き、実施したアンケートも予定より多くの方に協力いただきました。

当機構では、公式FacebookやInstagramの新規の登録者数の獲得を目指し、積極的に北海道の観光情報を発信していますが、会場において「北海道にまた行きます！」といった熱いメッセージを沢山いただきました。



タッチザジャパンの様子

## 政策・マーケティング部

### 第2回政策・セミナー勉強会(ケア・ツーリズム)をハイブリッドで開催！

11月8日に、脳神経外科医師・環境宇宙航空医学認定医として現在、都市圏と地方を結んだりハビリテーション・ツーリズムの提供を行っている、道下将太郎氏(株式会社 Re・habilitation 共同取締役、Afrode clinic院長)を講師に「Medical × 「？」の可能性」と題し、身体にハンデを背負っている方を受け入れるためのプラットフォームの形成方法などについてご講演をいただきました。当機構では観光を通して心身ともに健康になる「ケア・ツーリズム」を重点施策に位置付けており、今後とも推進して参ります。



ケア・ツーリズムセミナーの様子

## 総務部

### 令和4年度第2回正副会長会、第3回理事会をそれぞれ開催

10月14日に第2回正副会長会、同28日に第3回理事会をそれぞれ開催し、当年度の事業進捗に関する報告と、令和5年度の事業計画(案)等について審議されました。令和4年度第4回理事会は、来年3月24日に開催予定となっています。



第3回理事会の様子

## 北海道観光振興機構 事業活動予定

令和5年1月～

### 地域観光部

#### 観光関連事業者と外国語ガイドの就業(マッチング)商談会を開催!(観光人材育成事業)

2023年1月18日に日本及び海外に事業所のある観光関連事業者と、道内の通訳案内士とのマッチングイベントを札幌市内で開催します。当日は対面式、オンラインのハイブリッド形式により実施し、通訳案内士の就業機会及びガイド需要の創出を図ります。

<https://www.ec-mice.com/interpreter/#>

### 国内誘客部

#### 春のPRに向け北海道ブロック記者発表会(オンライン)を実施!

道内外のマスコミと旅行会社向けに、地域の観光情報を発信する北海道ブロック記者発表会をオンライン形式で、2023年1月27日に開催する予定です。詳細は決まり次第、メール等でご案内させていただきます。



## 地域公共交通における観光需要の 取り込みの可能性について

コロナ禍による外出自粛や人口減少により、地域公共交通を担う交通事業者は大きく打撃を受けている。行動自粛が解除された後も、概ね平年（コロナ前）の7～8割前後の回復となっており、減少に歯止めがかからないというのが実態のようである。

筆者が利用する自宅と最寄りの地下鉄駅までの定時定路線型バス（路線バス）もコロナ禍の2020年の運行ダイヤから、最終便の時刻が約40分繰り上げとなり利便性が大きく損なわれている。自治会で交通事業者に対し早期の改善申し入れを行ったが、コロナもさることながら最大の原因は運転手不足とのことで、コロナ前に戻る可能性は難しいと思われる。今後は自動運転バスの実用化や、最先端技術を活用した様々なサービスの向上が期待される。

コロナ前より、持続可能な地域公共交通のあり方について全国で議論が活発化している。2007年に制定された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（※以下、「活性化再生法」という）という法律には、地域公共交通を「地域住民の日常生活、社会生活による利用のほか、観光旅客その他の当該地域を訪れる者の移動のための交通手段として利用される公共交通機関と定義づけられている。

2020年11月には改正活性化再生法が施行された。地域の公共交通の維持・確保が厳しくなっている現状を踏まえ、地方公共団体による地域公共交通計画（マスタープラン）策定の努力義務化や、地域における協議の促進、利便性の増進施策を加速化させるため、「輸送資源の総動員による移動手段の確保」を目指し、地域の主体的な取り組みを促している。既存サービスの改善による持続可能性の模索が全国各地で始まっている。

先月、財務省の諮問機関である財政制度等審議会の部会が開催され、地域の公共交通に関する議論の中で、コロナ禍による赤字補填で予算額が大幅に膨張しており、補填頼みからの脱却のため構造的な課題を解決する方向に政策をシフトすべきとの指摘がなされた。

すでに、自治体と事業者連携による複数年かつ広域での事業計画支援などが検討されており、2023年度の法改正を視野に制度設計を行っており、地域の自立を促している。

当機構も今年度、網走市内で運行中の「AIデマンドバス（網走どこでもおでかけどこバス）」において、生活利用と観光利用のハイブリッドによる運行の持続可能性について調査分析を行っている。網走市内には、博物館網走監獄や、天都山（オホーツク流氷館、道立北方民族博物館）、道の駅流氷街道網走（網走流氷観光砕氷船の乗り場）、市立郷土博物館（モヨロ貝塚）などの観光スポットが各所に点在しており、利用の大部分を占める市民と観光客の相乗りも想定される。地域公共交通の在り方は、日常の通勤、通学や買い物、福祉、観光周遊など横断的に議論を進めて行かなければならない。

道内を旅行する観光客の行動実態を調査する北海道来訪者満足度調査（当機構調べ）によると、道外観光客のうち17.6%が道内での移動に路線バスを利用している。（2021年調査）また、コロナ前の2019年の調査では、訪日外国観光客のうち37.1%が路線バスを利用しており、広域周遊観光を促進するうえで路線バスや鉄道、タクシーなど道内の二次交通は必要不可欠なインフラである。今年度の第2次補正予算（総合経済対策）で円安を生かした「稼ぐ力」の強化により観光地へのインバウンドの回復を目指す。足元の二次交通もしっかりと確保したうえで、拠点となる空港や駅からのシームレスなサービスが提供できるしくみづくりが急務となる。

（Y.N）



網走市内で運行中の網走どこでもおでかけ「どこバス」



# 一般社団法人北海道IT推進協会

所在地：札幌市中央区北2条西3丁目1-16  
太陽生命ひまわり札幌ビル2階

会長  
入澤 拓也 様



## ■ 社業の沿革、体制などについて教えてください。

当協会は、1982年4月にコンピュータ用ソフトウェアを制作していた若手経営者15名が業界の発展と発言力強化のため任意団体「北海道ソフトウェア協会」として発足しました。1989年6月に法人化し「社団法人北海道ソフトウェア協会」、14年後の2003年4月には、情報社会の促進、協業環境の醸成、情報・提言の発信を目的として、社団法人北海道ソフトウェア協会と社団法人日本システムハウス協会北海道支部、北海道コンピュータディラー協会が統合して「社団法人北海道IT推進協会」が発足、さらに6月に北海道マルチメディア協会を統合し、ほぼ現在の体制となりました。現在の会員数は、正会員157社、賛助会員16社、特別団体会員8団体の計181社で、私が2019年5月に会長に就任し、現在2期目となっております。

## ■ 現在、積極的に取り組んでおられる事業について教えてください。

当協会の大きな事業は、会員活性化対応事業とプライバシーマーク付与認定事業となっております。

2030年までに「北海道のIT産業の売上高1兆円、デジタル人材5万人」を目標に、「人材確保・育成」、「営業力の強化」、「受注量の確保」、「社会貢献事業」等の事業を行っています。具体的には、理事を中心として大学や専門学校を訪問し道内IT産業の現状や就職先としてのIT産業などを説明し、IT業界が魅力的で将来性のある職場であることを発信する学内説明会、会長等が講師となり開催する会員向け営業力強化セミナー、沖縄IT津梁パークなどの関係者と情報交換を行う沖縄視察研修会などです。その他、ビジネスEXPOと同時開催した北のITシーズフェアの規模拡大、会員企業で使わなくなったPCを回収し、Chromebookとしてリユースし、子供の教育支援を行う非営利団体へ寄付するPC寄付事業などのほか、e-Sports大会、ゴルフコンペ、ソフトボール大会、ボウリング大会などのスポーツイベントも実施しています。

また、経済産業省北海道経済産業局の地域DX促進支援事業に協力して、DXに悩まれている企業向けに自らDX戦略を策定できるよう、会員企業が専門家として現状把握・分析の考え方、課題の抽出、解決の方向性を提示する伴走型支援事業も行っています。



合同企業説明会

## ■ 今後の展望(抱負)などについて教えてください。

道内のIT業界の現在の総売上は、5,000億円位と言われております。2019年の会長就任時に、2030年には売上を現在の倍の1兆円にしたいと思っておりました。IT業界の成長率が年率で4%程度なので、2030年に倍にするには7~8%の成長率が必要となります。現在の国内のデジタル人材は、統計では約2万5千人ですが、5万人にすれば、単純に売上も倍になる計算となります。この2万5千人をどのように育て、増やすかを考えたときに、プログラマーを育てたり、採用することももちろん大事ですが、ユーザー企業様の中のデジタル人材化を啓蒙し、進めていきたいと考えております。プログラムができるからデジタル人材ではなく、会社のことをよく分かっている人がデジタルの知識を身に付ける方が早いと考えております。今後は、セミナーや研修を通してユーザー企業様の中の人のデジタル人材化を推進し、IT業界全体の発展に取り組んでいきたいと考えております。



北のITシーズフェア

## ■ その他

旅行は、「旅マエ」も「旅ナカ」も「旅アト」もほとんどの方がインターネットを使います。今後、ITの力は観光でもますます重要になると感じております。北海道として戦略的に情報発信することや来道された観光客をどのように囲い込んでリピーターに繋げてファンになってもらうかなど、そういったことをデジタルで繋げることができればもっと良いのではと感じています。デジタル業界には観光分野に特化した企業はまだ少なく、新しい事業と一緒にやっていきたいと思っています。例えば、北海道に来たら必ず入れるアプリを開発し、そのアプリを使えば北海道の観光情報だけでなくどこでもWi-Fiが使えたり、決済などもすべての店舗でできるようなアプリなどがあれば面白いと考えています。北海道のWi-Fi環境は、海外に比べるとまだまだ不十分だと感じることもあるので、インフラ整備でもやれることはあるのではないかと考えています。当協会としても今後、アプリ開発やネットワーク環境整備など様々な分野で北海道の観光に貢献することができればと考えております。

# HOKKAIDO LOVE! (日本語)セッション数ランキング(人口比)

当機構では、2022年3月にリニューアルした、公式ウェブサイト「HOKKAIDO LOVE!」の閲覧状況について定期的に分析を行っております。今般、2022年上期(4～9月)の都道府県別のセッション数をベースに比較・分析を行いましたのでご報告いたします。

表1

地方	都道府県	セッション		
		①順位	②SS数	③シェア
関東	東京都	1	648,064	40.3%
北海道	北海道	2	333,153	20.7%
関西	大阪府	3	100,576	6.3%
関東	神奈川県	4	73,106	4.5%
中部	愛知県	5	57,125	3.6%
関東	埼玉県	6	44,948	2.8%
関東	千葉県	7	41,351	2.6%
関西	兵庫県	8	32,527	2.0%
九州	福岡県	9	27,627	1.7%
関西	京都府	10	18,944	1.2%
中部	静岡県	11	18,864	1.2%
関東	茨城県	12	15,652	1.0%
中国	広島県	13	13,709	0.9%
関東	栃木県	14	10,703	0.7%
東北	宮城県	15	10,521	0.7%
中部	岐阜県	16	10,270	0.6%
関西	三重県	17	10,029	0.6%
中部	新潟県	18	8,932	0.6%
関東	群馬県	19	8,639	0.5%
東北	青森県	20	7,746	0.5%
中国	岡山県	21	7,457	0.5%
関西	奈良県	22	7,291	0.5%
中部	長野県	23	7,219	0.4%
四国	愛媛県	24	7,065	0.4%
関西	滋賀県	25	6,917	0.4%
東北	福島県	26	5,955	0.4%
四国	香川県	27	5,887	0.4%
東北	岩手県	28	5,382	0.3%
東北	山形県	29	4,765	0.3%
沖縄	沖縄県	30	4,639	0.3%
中部	山梨県	31	4,364	0.3%
中部	石川県	32	4,052	0.3%
関西	和歌山県	33	3,995	0.2%
四国	徳島県	34	3,914	0.2%
九州	熊本県	35	3,856	0.2%
中国	島根県	36	3,396	0.2%
中部	福井県	37	3,319	0.2%
中部	富山県	38	3,280	0.2%
中国	山口県	39	3,235	0.2%
中国	鳥取県	40	3,071	0.2%
九州	鹿児島県	41	2,761	0.2%
九州	宮崎県	42	2,738	0.2%
東北	秋田県	43	2,634	0.2%
九州	長崎県	44	2,555	0.2%
九州	大分県	45	2,502	0.2%
四国	高知県	46	1,658	0.1%
九州	佐賀県	47	1,520	0.1%
			1,607,913	100.0%

表2

地方	都道府県	セッション			人口			差 ④-①	シェア率 (1万人あたり) ②+③×10,000	平均SS時間	
		①順位	②SS数	③シェア	④順位	⑤人数	⑥シェア			順位	時間
四国	香川県	27	5,887	0.4%	39	942,000	0.8%	12	62人	42	0:01:48
東北	青森県	20	7,746	0.5%	31	1,221,000	1.0%	11	63人	45	0:01:37
中部	山梨県	31	4,364	0.3%	42	805,000	0.6%	11	54人	37	0:01:56
四国	徳島県	34	3,914	0.2%	44	712,000	0.6%	10	55人	23	0:02:11
中国	島根県	36	3,396	0.2%	46	665,000	0.5%	10	51人	43	0:01:47
中国	鳥取県	40	3,071	0.2%	47	549,000	0.4%	7	56人	44	0:01:46
関西	奈良県	22	7,291	0.5%	29	1,315,000	1.0%	7	55人	9	0:02:24
東北	山形県	29	4,765	0.3%	36	1,055,000	0.8%	7	45人	40	0:01:52
関西	和歌山県	33	3,995	0.2%	40	914,000	0.7%	7	44人	31	0:02:03
北海道	北海道	2	333,153	20.7%	8	5,183,000	4.1%	6	643人	47	0:01:22
中部	福井県	37	3,319	0.2%	43	760,000	0.6%	6	44人	20	0:02:12
関西	三重県	17	10,029	0.6%	22	1,756,000	1.4%	5	57人	29	0:02:08
関東	栃木県	14	10,703	0.7%	19	1,921,000	1.5%	5	56人	34	0:02:01
四国	愛媛県	24	7,065	0.4%	28	1,321,000	1.1%	4	53人	41	0:01:51
東北	岩手県	28	5,382	0.3%	32	1,196,000	1.0%	4	45人	38	0:01:55
関西	京都府	10	18,944	1.2%	13	2,561,000	2.0%	3	74人	19	0:02:13
中部	岐阜県	16	10,270	0.6%	17	1,961,000	1.6%	1	52人	17	0:02:15
関西	滋賀県	25	6,917	0.4%	26	1,411,000	1.1%	1	49人	6	0:02:33
中部	石川県	32	4,052	0.3%	33	1,125,000	0.9%	1	36人	3	0:02:44
関東	東京都	1	648,064	40.3%	1	14,010,000	11.2%	0	463人	46	0:01:35
関西	大阪府	3	100,576	6.3%	3	8,806,000	7.0%	0	114人	32	0:02:01
九州	福岡県	9	27,627	1.7%	9	5,124,000	4.1%	0	54人	24	0:02:10
中部	愛知県	5	57,125	3.6%	4	7,517,000	6.0%	▲1	76人	13	0:02:17
関東	千葉県	7	41,351	2.6%	6	6,275,000	5.0%	▲1	66人	35	0:02:00
関東	埼玉県	6	44,948	2.8%	5	7,340,000	5.8%	▲1	61人	25	0:02:09
関西	兵庫県	8	32,527	2.0%	7	5,432,000	4.3%	▲1	60人	18	0:02:15
関東	茨城県	12	15,652	1.0%	11	2,852,000	2.3%	▲1	55人	28	0:02:08
中部	静岡県	11	18,864	1.2%	10	3,608,000	2.9%	▲1	52人	26	0:02:09
中国	広島県	13	13,709	0.9%	12	2,780,000	2.2%	▲1	49人	14	0:02:16
東北	宮城県	15	10,521	0.7%	14	2,290,000	1.8%	▲1	46人	16	0:02:15
関東	群馬県	19	8,639	0.5%	18	1,927,000	1.5%	▲1	45人	30	0:02:06
中国	岡山県	21	7,457	0.5%	20	1,876,000	1.5%	▲1	40人	27	0:02:09
中部	富山県	38	3,280	0.2%	37	1,025,000	0.8%	▲1	32人	11	0:02:22
四国	高知県	46	1,658	0.1%	45	684,000	0.5%	▲1	24人	5	0:02:38
関東	神奈川県	4	73,106	4.5%	2	9,236,000	7.4%	▲2	79人	10	0:02:22
中部	新潟県	18	8,932	0.6%	15	2,177,000	1.7%	▲3	41人	33	0:02:01
東北	福島県	26	5,955	0.4%	21	1,812,000	1.4%	▲5	33人	39	0:01:54
沖縄	沖縄県	30	4,639	0.3%	25	1,468,000	1.2%	▲5	32人	1	0:02:50
東北	秋田県	43	2,634	0.2%	38	945,000	0.8%	▲5	28人	36	0:01:59
九州	佐賀県	47	1,520	0.1%	41	806,000	0.6%	▲6	19人	12	0:02:19
中部	長野県	23	7,219	0.4%	16	2,033,000	1.6%	▲7	36人	22	0:02:12
九州	宮崎県	42	2,738	0.2%	35	1,061,000	0.8%	▲7	26人	7	0:02:33
九州	大分県	45	2,502	0.2%	34	1,114,000	0.9%	▲11	22人	4	0:02:40
中国	山口県	39	3,235	0.2%	27	1,328,000	1.1%	▲12	24人	21	0:02:12
九州	熊本県	35	3,856	0.2%	23	1,728,000	1.4%	▲12	22人	15	0:02:16
九州	長崎県	44	2,555	0.2%	30	1,297,000	1.0%	▲14	20人	2	0:02:44
九州	鹿児島県	41	2,761	0.2%	24	1,576,000	1.3%	▲17	18人	8	0:02:29
			1,607,913	100.0%		125,500,000	100.0%		(平均) 47人		

▶データについて

- ・指標：セッション数(サイトへの訪問数、以下、「SS」という)(※出典：グーグルアナリティクス)、都道府県別の人口の順位とシェア率(人口1万人あたりのシェア率、平均セッション時間)(※出典：総務省統計局人口推計)
- ・データ取得期間：R4年4月～9月
- ・分析手法：順位の差分と、人口1万人あたりのシェア率及び平均SS時間を検証。  
特記事項(東京都と北海道)
- ・東京都と北海道は、本評価手法においては下記の理由により、参考程度とする。  
理由 東京都：特に携帯端末からのアクセスが東京都にカウントされるケースが多い。広告施策が東京中心に展開され、東京都の数字が大きくなる傾向がある。北海道：地元のため、他府県に比べアクセスが多くなる傾向になる。



# HOKKAIDO LOVE! (日本語) のセッション数ランキング解説

## 表1、2について

■表1: SS数の多い順にランキング、1位はシェアが40%の東京都、2位は北海道の20%。1位から10位(京都府)までで、SS数全体の約86%を占める。

■表2: 人口順位の割にSS数が多いランキング

▶表1に県別の人口を追記し、人口数の順位からSS数の順位を引いた数を「差」列に表示しランキング。「差」がプラス(赤セル)だと、人口の割にSS数が多いことを指し、興味関心が高いと仮説設定する。

▶1万人あたりシェア率:北海道と東京都を除いた平均は47人となり、平均より多いものを緑セルとした。

▶平均セッション時間:一部例外はあるが、北海道からの距離が遠くなると時間が長くなる傾向がある。(2分以上を赤セルとした)

## 検証結果

■人口の割にSS数が多い都道府県(差分7以上)は、香川県、青森県、山梨県、徳島県、島根県、鳥取県、奈良県、山形県、和歌山県となった。一方、SS数が少ない都道府県(青セル、差分▲5以下)は、福岡県を除く九州、山口県、沖縄県、東北(福島県、秋田県)と長野県となった。

## 重点ターゲットの設定について

①東北エリア:航空機(直行便)や新幹線のある青森県と山形県を中心に、1万人シェア率40人以上の岩手県、直行便のある宮城県を加えた(4県人口576万人)を重点としたエリア

②関西エリア:北海道への直行便がある関西3空港(神戸、関西、伊丹)、岡山空港に2時間圏内の香川県、徳島県、奈良県、和歌山県、三重県(5県人口計564万人)を重点としたエリア。5県平均のSS時間が長い(2分超)のも特徴となっており、5県に加え、1万人あたりのシェア率が高い京都府、大阪府も加えるとより効果が高まると料する。

### キュンちゃんの小部屋

HOKKAIDO LOVE! NEWS  
2023年1月31日まで  
現在イベント実施中!

集めたスタンプの数によって

メインコンテンツ  
サブコンテンツ

期間延長!  
HOKKAIDO LOVE! 300yen OFF!

NEW OPEN  
HOKKAIDO LOVE! NEWS

### 北海道観光振興機構 LINE公式アカウント

北海道の旬な情報はこちらから!  
お友達登録が約21万人を突破  
(※令和4年11月下旬現在)  
キュンちゃんが道内各地を紹介中!

### 北海道の観光案内所



どさんこ旅サロン  
東京・東京交通会館3階

「どさんこ旅サロン」は、「北海道どさんこプラザ」(北海道のアンテナショップ)がある、東京交通会館の3階(札幌市東京事務所内)にございます。(JR有楽町駅下車すぐ)  
道内各地のパンフレットを取り揃えているほか、スタッフによる観光・イベント情報の案内や旅行相談も承っています。

住所/東京都千代田区有楽町2丁目10-1  
東京交通会館3階  
営業時間/11:00~19:00  
定休日/土・日・祝、年末年始、施設の全館休業日  
問合せ/電話03-6206-3163



北海道さっぽろ観光案内所  
JR札幌駅西コンコース北口

JR札幌駅の「北海道さっぽろ食と観光情報館」内にあり、専門のスタッフが日本語以外に、英語、中国語、韓国語で旅行相談に応じ、最新の観光情報を提供致します。また、観光振興機構作成のパンフレットのほか、会員施設のパンフレットが各種陳列されています。

住所/札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅西コンコース北口「北海道さっぽろ食と観光情報館」内  
営業時間/8:45~20:00 定休日/年中無休  
現在、改修工事につき休館となっています。(営業再開は2023年1月下旬予定)

## 会員募集中!

入会申込みの詳細は、  
お問い合わせください。



### ■本レポートに関するお問い合わせ先

公益社団法人北海道観光振興機構  
政策マーケティング部  
〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1番1 緑苑ビル1階  
TEL 011-231-0941 FAX 011-232-5064

**&sauna**

サウナで、日本を温かく。

広大な大地と豊かな自然、  
北海道で&saunaは誕生しました。  
全国各地を巡り、私たちが見つけたのは、  
サウナだけではありません。

街の息づかいが聴こえてくる、力強い文化。  
心をつかんで離さない景観。  
そして、行く先々で出会うキラキラした人たち。  
サウナをきっかけに知った、かけがえのない財産です。

だからこそ、私たちは信じています。  
街を、自然を、人をつないでくれたサウナの可能性を。

サウナで、日本を温かく。  
魅力の種を掘り起こし、  
あなたと一緒に汗をかいて創り上げていく。  
そのような想いから生まれた、  
&saunaの新しいカタチです。



**&sauna FARM**

&saunaFARMは、北海道発のサウナメディア  
&saunaが運営する地域共創型プラットフォームです。  
&saunaが持つサウナコンテンツやリソースと、  
自治体様や企業様が保有する  
資産やサービスをかけ合わせることで、  
新しいサービス開発やコンテンツ企画、  
プロモーション立案などを行っていきます。

